

中国内陸農村訪問調査報告（ 1 ）

内山 雅生，三谷 孝，祁 建民

The Report of House-to-House Investigation in Rural Community of Inland China (1)

Masao UCHIYAMA, Takashi MITANI and Jianmin QI

概 要

本稿は、2009年12月17日～24日の間に筆者をはじめとする中国農村研究者は中国山西省P県N郷D村で実施した聞き取り調査の報告書の一部である。老農・幹部経験者・村落婦人・農村教師・農民企業家など農村の諸階層から聞き取り調査を行った、1940年前後を起点とする70年間の農村変革の歴史的過程を追跡した。農民との質問応答録を原則としてそのまま収録することによって村落社会の多様な面に照明を当て、村民の視点に立った家族史・村落史の再構成を目指した。

キーワード：中国内陸農村，個人史，家族関係

2009年12月17日～24日の間に筆者をはじめとする中国農村研究者は中国山西省P県N郷D村で聞き取り調査を実施した。ⁱ山西省の農村については、2007年12月と2008年12月に2回の予備調査を行った。ⁱⁱ以上の訪問調査は山西大学中国社会史研究センターの協力を得て、日中両国の共同研究の形で行った。日本側の参加者は内山雅生（宇都宮大学教授・代表）、三谷孝（一橋大学名誉教授）、弁納オ一（金沢大学教授）、田中比呂志（学芸大学教授）と祁建民である。山西大学側の参加者は行龍（山西大学教授、副学長）、郝平（同副教授）及び同研究員の常利兵、李嘯、馬維強で、通訳の毛来靈、孫登州で、大学院生の張永平である。

調査村のD村は黄土高原に位置して、昔から山西商人発祥の地の一つともいわれている。現在の人口は3243人、911世帯、王姓は80%を占め、他は田姓、侯姓も多い。村外への出稼ぎ労働者は村の労働力の約15%である。総面積8700畝ⁱⁱⁱ、耕地面積6013畝である。産業は農業と養殖業で、一人当たりの年収は3700元である。グローバル化はこのような内陸の農村をも巻き込み、村民はフィンランドから種キツネを導入し、繁殖して飼養し、その毛皮をロシアに輸出している。村の小学校には、生徒が約300人いる。村の中にはカトリックとプロテスタントの信者があり、一つの教会がある。以下は聞き取り調査の記録の一部である。また、弁納、田中及び山西大学のメンバーの調査記録は他の刊行物で掲載予定である。^{iv}

TFZ

訪問日時：12月19日午後

訪問場所：WCFさん経営商店

人の良さそうな老人だが、祁にもよく聞き取れない中国語で、同行した副書記が説明する場面が多い。応答にあたっては、記憶も不明確なこともあって、途中から参加した他の老人たちによる回答にとって代わられる。

年齢 = 76歳(満75歳) 狗年(1934年戌年生まれ)

主な職業 = 小学校で4, 5年勉強した後から木匠。

両親 = 父はTZF, 母はLYX。父は、日本軍が来る前から、間長として、村公会で働いていた。公務に熱心だったので、間長に選ばれた。日本軍占領下でも、夜になると、八路軍が家に来た。父は物資を援助した。そのため、日本敗戦後、二戦区の間錫山軍に逮捕された。間軍が占領したのは、1946・47年。48年にこの村は解放された。

日本軍について = 二道街に住んでいた村長の家が、日本軍に協力しないからとして、焼かれた。日本軍は木を伐採して、鉄道の枕木とした。

土地所有 = 父は100畝の土地を持っていた。もともと60畝を所有していたが、解放直前になって、共産党が地主を打倒していると聞いた140畝の土地所有の地主が、40畝を譲ってくれた。小作料もとらなかった。土地改革では、中農とされた。

(これから主に供銷社職員だったWCFさん72歳・文革時の主任だったJSLさん73歳が回答する)

日中戦争期の共産党員 = 王玉春。八路軍の地下工作員だった。4, 5年前に亡くなった。

この村の地主 = 王志中, 王益商, 王懷然, 王道宝, 劉習空など6, 7軒。富農は十数軒。

土地改革時の幹部 = 王風林, 郭振亮。

共産党書記 = 解放時は江正, 1951・52年は王修和, その後田可有, 再び王修和, そして段翠芳。

集団化 = 大きな互助組が1つ。変工隊は2つ。初級合作社は、和平社・勝利社・建設社の3つ。

高級合作社は紅旗社, 大人民公社時代は、洪商人民公社のD大隊だったが、人民公社の分割後は、王家庄人民公社に所属した。大食堂は58年に10の生産隊ごとに設置されたが、62年に解散した。

(参加人数が多くなり、混乱気味になってきたので、質問も政治的話題は避け、水利等に限定する)

この村では、主に汾河の水を利用し、ときどき南河水を利用した。

1956年に井戸を掘る運動が展開し、2丈の深さの井戸を掘ったが水は出なかった。

1966年の大四清運動時に野菜の栽培のために深さ30から40mの12の井戸を掘った。2回ほど高灌をおこない(揚水站を造る), 2000畝の土地を灌漑するまでに拡大した。

文革時に100mの深さの井戸を掘ったが(水は出ず)失敗した。

近年20の深い井戸を掘り、日本へ輸出するアスパラ栽培に利用している。しかし、現在の野菜栽培は、自家消費分が大半。村の農家も県外から売りに来る野菜を購入している。

文革時には、県の農林局の指導のもとに、桃・梨・ブドウを栽培した。

WCF

訪問日時: 12月21日午前

訪問場所: WCFさん経営商店

穏やかな人柄をしのばせるが、極めて慎重に応答する。幹部についてのコメントは避ける。

1938年生まれ，寅年，72歳（満71歳）。

父は WPX（60年に長期の栄養失調のため足がはれ，餓死した），母は LPY（閩良庄出身）。妻 = QGH（71歳，沿村堡出身），長女 WXM（故人），長男 WY（42歳，97年に供销社より請負い，2001年に8万元を払って個人で商店経営），次女 WRF（36歳，洪商村に嫁ぐ）。

初級小学4年，高級小学2年半。16歳で，供销社に就職，53年～60年この村，60年～62年洪商村，62年～82年王家庄，82年より県城の土産日雑会社に勤務，99年定年退職。

土地改革時は，中農を区分された。

1952年の反地主闘争の時に，地主の王志中，王立根が銃殺された。

村ではわずかの農家が変工し，労働力不足の農家では，村内人を短工として雇用。賃金は食糧かもしくは現金。2，3軒の農家は長工を雇った。県城に入市はなかった。

58年より汾河のダム建設に村民が従事，沙河には汾河の水を引き，アルカリ土対策をした。

四清運動では，靈石県の幹部が工作隊としてきた。批判されたのは，侯林華，張文治，ともに横領罪とされた。王家庄の供销社でも四清運動が起きた。

（年金）（長男の請負地）村の歴史に詳しい人 = WZX，WXR（共に老幹部）。

WXR

訪問日時：12月21日午後

訪問場所：WXR 宅

じっくりと慎重に思いだしながら回答する老幹部（雇農，木匠）である。

戌年，76歳。

父は WDC（介休県で雇農，土地改革時に6畝を分配される），母は WHS。妻 = ZYL（寧固鎮南堡村出身，3年前に69歳で死亡），長女 WYH（41歳本村で結婚），次女 WYP（40歳，同左），長男 WWM（39歳，同左），三女 WYL（37歳，南政村），四女 WYQ（35歳，西遊駕村），五女 WYM（34歳，平遥県城）。

1948年南政村で木匠（大工）1年半修業，1952年に村に戻った。互助組に参加した。組長は WZX であった。53年初級合作社（「社三淮農業生産合作社」）に入社した。副隊長の任についた。56年高級合作社隊長，58年治保主任など歴任した。1956年共産主義青年団に入団し，59年入党した。61年大隊支部委員，65年～86年党書記などの任についた。

四清運動では，靈石県から工作隊が来た，書記 WXH が汚職と政治問題にて免職された。WXH が，ある人の階級区分に富農から中農へ改正した時に，偽文書を提供した。その後 WXR が書記となる。DCF は四清運動の工作隊により将来の王家庄人民公社の幹部として推薦されたが，県の党書記が認めず，2ヵ月間村の書記をして，人民公社の副書記に昇進した。JSL は四清運動の時の村の主任（村長）を WZX と選挙で争ったが落選し，人民公社の農場に派遣された。76年以降に村の主任となった。

村の副主任であった WLR が，一貫道に関連して免職された。

自分は，文革時には革命委員会主任となる。

反革命鎮圧運動の時に，地主の王步寬が銃殺された。彼は国民党の特派員だった。

村の歴史を知る人は = WZX, JSL。

1960年代には村の副業として、養豚場、春雨工場と豆腐屋があった。

水利工事ではアルカリ性土地を改造するため、排碱渠を掘った。

1970年代に5, 6の井戸を掘った。深さ150メートルくらい。

改革開放以降、村の栽培計画が実施できなかった。上に報告した栽培計画は、実は偽のものである。その後自由栽培した。

WZX

訪問日時：12月22日午前

訪問場所：WZX 宅

老幹部の一人で、キーパーソンである。

1932年生まれ、申年、78歳（満77歳）。

（家族）父 = WYF, 母 = LCM, 妻 = DXT, 62歳の時亡くなった。（Wさんの7歳年下）、ここから7里離れた田家堡出身。長女 = WGQ, 酉年, 53歳, 長男 WCG, 戌年, 52歳, 次女, WGY, 次男 WGL, 三女 WGD, 38歳。

（教育）11歳で小学校に入学し、4年間通学。しかし12歳の時に父と死別し、母と子ども6人の生活は苦しく、春から農作業に従事し、農閑期の冬のみ通学した。

（日中戦争について、行龍教授へのインタビューと比較して、概してあまり語りたらない。）

（幹部歴）52年互助組組長。53年社二回（中共黨員）農業生産合作社（22戸）の主任についた。54年初級合作社の勝利社（20世帯）の副主任についた。共産党に入党し、党支部委員となった。55年高級合作社の紅旗社の副主任となり、農業生産の管理を担当した。56年人民公社の副主任、59年に主任の任についた。89年まで主任と副主任を繰り返し交代する。農業専門学校に通学したことはない。毎年、収穫後に開催された三級（人民公社、生産大隊、生産隊）幹部会議で学習した。60年代初頭の困難期では、村民は働く気がないので、指導しても働こうとせず辛かった。「学大寨運動」では朝早くから社員に働いてもらい、冬には水利建設に従事した。その時、（村の幹部）党支部5～7人で、行政は9～13人であった。党書記の任についた人は、WXR, TKY, WXHであった。

（大食堂）10の生産隊は一つずつ設立した。

（四清運動）貧・下層中農が幹部を批判した。生産大隊の貧農協会の総代表には、WXN(故人), WH(83歳で健在), HYS(故人)。

（文革の時）二つの派閥（総司、連絡站）は、県では立したが、村内では対立しなかった。

（改革開放について）農業生産高は上昇したが、村民同士の統一がとれなくなった。ただ男性の多くが出稼ぎに行くので、残った女性間に変（編）工している。

（農業機械）昔はキャタピラーつきトラクター2台、トラクター（タイヤ式）3台、種まき機6, 7台、コンバイン7台があった。

（WZXの年金）あわせて20年間村の幹部についたので、現在、政府から年間800元の生活費（年金）（この前は700元）を支給された。

MLG TYY

訪問日時：12月22日午後

訪問場所：MLG 宅

プロテスタントの信者であり、家の壁にイエスの絵が張られている。地味で親切な人である。バイブルなどを見せてくれた。

1932年生まれ，申年，78歳（満77歳）。

（家族）父 = MJS，母 = YXY，妻 = TYY74歳，隣村の西游駕出身。長女 = MML，57歳，南梁如村に嫁ぐ，次女 MAL，42歳，東堡村に嫁ぐ，長男 MYS，40歳？卯年，本村で商売。長男の長女は西安の大学3年生で会計を学ぶ，学費・生活費で年間1万元かかる）。

（履歴）小学校に2，3年通う，その後は農業。1951，52年頃，隣人の紹介で太原児童病院の通信員となる。叔父の養子となっていたので，1960年に叔父叔母の世話をするために村に戻ってきた。村の保衛をしていた。泥棒を捕まえて大隊の役所に連行したこともある。泥棒の多くはこの村の人で，食糧がないので盗んだ。土地改革の時は，20～30畝（叔父の土地）を所有したので中農に区分された。四清の時に貧農に改められた。

（キリスト教）叔母が教徒（プロテスタント）だった。村で信徒は十数戸。高人の家で集会をする（毎週水曜10～12時），過礼拝という。城内の教会から人が来て教義を教えてくれる。

妻 TYY は，十数歳で入信した。四清・文革の時には聖書なども没収された。彼女は4人組が悪いと言った。入教すれば神様に守られるというので入信した。妻は嫁に来てY老婆々（この村の人）に勧められた。夫のMはずっと拒否してきたが老人になって死んだら天国に行けるというので2年前に入信した。昔は人数が少なかったので，集会はこの家でやったが，今は向う隣の家，HLY 宅）でやっている。

現在無収入で息子に養われている。息子は事故米を味噌・醤油工場に売る商売をしている。

CPJ

訪問日時：12月22日午後

訪問場所：D村の路上

村の副書記長，今回の調査にかなり協力してくれた。

CPJ，51歳。

（村の保衛）集団化時代には，村は8人の保衛人員がいた。毎日の午前と午後，農作業をやめる時に，村の入り口で，社員の身体検査をした。窃盗者を見つかり，縄で縛って，大隊事務室に連行した。殴ることがないが，罰金を課する。一般的に，玉蜀黍を一つ盗んだら，8元罰金を課する。当時，村民は食べ物がなかったので，よく窃盗した。

私はその時，民兵排長を担当した，手製の猟銃をもって，冬の夜に，巡邏する。昼は棒をもって，村を回って歩く。

集団化の時，ふだん高粱を食べ，一人に年間15斤小麦を分配し，その他粟をすこし分配する。食用油はたいへん少ない。私の生産隊は70世帯，300人くらいで，一頭の豚を屠殺して，1世帯

2, 3斤しか分配しなかった。

注

- i 訪問調査の日程は：12月17日，山西大学社会史センター，打ち合わせ。18日，午前，太原からP県へ移動，午後，D村の幹部と打ち合わせ，村の状況を紹介。19日，午前，D村小学校で村幹部へ聞き取り調査，午後，農民に聞き取り調査。20日，午前，資料整理，午後，D村教堂のミサを見学，夜，行龍氏の調査報告会。21日，一日，農民に聞き取り調査，夜，調査報告会。22日，一日，農民に聞き取り調査。23日，平遥から太原へ移動。24日，山西省档案（公文資料館）に資料調査。
- ii 弁納オー「華北農村訪問調査報告⁽¹⁾ 2007年12月，山西省太原市・霍州市農村」『金沢大学経済論集』第29巻第1号，2008年12月。同「華北農村訪問調査報告⁽²⁾2008年12月，山西省太原市・霍州市・平遥県農村」北陸史学会『北陸史学』第57号，2008年12月。参照。
- iii 畝は中国農村における土地の面積単位であり，1畝は約6.67アールである。
- iv 行龍など（弁納オー訳）「山西省農村調査報告⁽¹⁾ - 2009年12月，P県D村」（金沢大学環日本海域環境研究センター『日本海域研究』第42号，2011年2月）。弁納オー「華北農村訪問調査報告⁽³⁾ - 2009年12月，山西省P県D村」（金沢大学環日本海域環境研究センター『日本海域研究』第42号，2011年2月）。田中比呂志「華北農村訪問調査報告⁽¹⁾」『東京学芸大学紀要（人文社会学系）』62集，2011年1月。
- v 1斤は500グラムである。